

令和4年第7回

幸手市教育審議会会議録

招 集 期 日	令和4年12月27日（火）午後1時30分					
開 会 場 所	幸手市役所本庁舎 3階 第1委員会室					
開会の日時・宣告者	令和4年12月27日（火）午後1時30分				森 祥一	
閉会の日時・宣告者	令和4年12月27日（火）午後3時18分				小林 学	
議 長	森 祥一（会長）			議長代理	小林 学（副会長）	
委員出席状況	議 席	氏 名	摘 要	議 席	氏 名	摘 要
	1	出井 保信	出席	1 1	細井 孝	出席
	2	稲垣 仁美	出席	1 2	松田 光男	出席
	3	井上 弘江	出席	1 3	松本 佑季子	欠席
	4	大村 真樹	出席	1 4	眞中 千穂	欠席
	5	小川 聖子	欠席	1 5	三柴 幸一	出席
	6	小曾根 昌雄	出席	1 6	宮田 充	出席
	7	木村 麻子	出席	1 7	森 祥一	出席
	8	木村 則之	欠席	1 8	山下 治郎	出席
	9	小林 学	出席	1 9	山本 太輔	出席
	1 0	竹内 徳望	出席	2 0	渡邊 千穂	出席
議事参与者	職 名	氏 名	職 名	氏 名		
	教育部長	小林 秀樹				
	学校教育課長	堀越 成夫				
	総務課主席主幹	大竹 孝典				
書 記	関口 智章		傍 聴	0人		

会議事件名	顛末
<p>1 開 会 午後1時30分</p>	<p>森会長 開会を宣する。</p>
<p>2 前回会議録の承認</p>	<p>森会長 前回会議録の承認を求める。 《承認》 全員異議なく承認。</p>
<p>3 会議録署名委員の指名</p>	<p>森会長 議席番号15番の三柴委員と議席番号18番の山下委員に署名をお願いする。</p>
<p>4 議事 (1) 適正規模・適正配置について ① 適正規模及び適正な通学距離の目安</p>	<p>事務局 適正な通学距離の目安について、資料により説明する。 《質疑》 森会長 通常の歩行速度だが、低学年から中学年の男子で分速59.2m、女子で分速64.9m。中学年から中学生の男子で分速66.5m、女子で分速79.1mと言われている。また、自転車は時速14.6kmが一つの目安とされている。 事務局から例示された適正な通学距離の目安である小学生の概ね4km以内を時間に換算すると、低学年の男子で68分、女子で60分。中学生の概ね6km以内は、自転車だと約25分となる。 委員 直線距離で4kmや6kmと言っても、道のりで考えると農地が多い地区では蛇行したり遠回りしたりとバラつきがある。道のりが最長の子を基準に考えないと小学生は大変だと思う。 委員 吉田小学校で最も遠い子が4kmと聞いたことがあるが、今後、学校再編により吉田小学校区が4km以内の目</p>

安から逸脱してしまうのではと懸念している。徒歩で通学に1時間かかると、朝の集合時間が6時台とも聞いた。アンケートでは2～3kmが多かったと思うが、この4kmという距離を目安にするのであれば、通学路のことも考えた方がいいと思う。

委員

行幸小学校も遠い子がいるので、遠いお宅を基準にするのも一つの方法かと思う。

中学生は、徒歩の子もいるが、部活で遠征するなど自転車が基本の生活になっているので、徒歩の通学にこだわらなくてよいと思う。

委員

4kmはちょっと遠いと思う。

森会長

小学生は徒歩で1時間かかるので、集合時刻を考えると、今の時期は日が昇っていないので心配はある。

委員

娘が小学生の時、通学距離が自宅から小学校まで2.5kmだったが、4号バイパスを横断して帰ってくると、それだけで疲れていた。概ね4kmという距離は、小学生にとってはきついと思う。

もし統合ということになるのであれば、スクールバスで通うようなことにしないと、登校だけで疲れてしまう。

中学生になれば、概ね6km以内でも自転車で通えない距離ではないと思う。

委員

適正な通学距離の目安は、文部科学省の基準の距離でいいと思うが、この目安を超過する場合は、スクールバスの導入を希望する。

委員

目安としては概ね4km以内、6km以内でやむを得ないと思うが、但し書きにあるように、実情に応じてスクールバスや公共交通機関の活用を検討が大前提になると思う。

中学生は自転車通学を許可すれば、ある程度クリアできると思うが、小学生は、徒歩以外の通学手段を考慮しないといけないと思う。

委員

小学生は概ね4 km以内、中学生は概ね6 km以内でやむを得ないと思うが、子どもの足で時間がどのくらいかかるかというところも見てもらいたい。

中学生は他の委員からも意見があったように、自転車通学であれば問題ないと思うが、遠いところはスクールバスを運用すればより良いと思う。

委員

地区の実情を考慮する必要があると思う。

委員

4 kmと言っても、平地部と山間部では大変さが異なる。幸手市はほぼ平地なので、4 kmでも仕方がないと思う。

委員

横断する際に危険がないよう考慮する必要などはあるが、基本的にはこれまでの委員と同意見である。

委員

適正規模の目安としてはこれでいいが、予算があるのであれば、権現堂川小学校・八代小学校・吉田小学校を残した方が、通学距離が短くて安全が図れるし、地域の方々が見守ってくれると思う。

特にコロナ禍にあっては少人数の方が価値があるし、先生方の目も行き届く。吉田小学校は、学力も負けていないとも聞いた。統合を前提にするのは賛成しかねる。

通学距離については、東中学校区の小学校を東中学校に置いたとして、一番遠くて10 km、雪が降ると2時間以上かかるかもしれないのでバスは必要だと思う。

なお、望ましい学校の枠組みの審議に入る前に、是非、市長や教育長が目指している市の方向性を伺いたい。

委員

これまでの委員とほぼ同意見で、遠いところはスクールバスでカバーすることと、安全面に配慮して交通事故のないように登下校できればよいと思う。

委員

目安としては4 kmでよいと思うが、小学校低学年が1時間以上歩くのは日常生活に支障が出ると思うので、距離と言うよりは、通学にかかる時間を考慮してスクールバスを導入することが必要だと思う。また、中学生については、自転車通学ができれば問題ないと思う。

<p>②望ましい学校の枠組み等</p>	<p>森会長</p> <p>適正な通学距離の目安としては、小学校は概ね4 km以内、中学校は概ね6 km以内と決定するが、地域の実情等も踏まえてスクールバスの導入など検討してもらおうという形でよろしいか。</p> <p>《承認》 全員異議なく承認。</p> <p>事務局</p> <p>委員から、市の方向性を伺いたいと御要望いただいたが、この審議会では、市長や教育長の考えに合わせて考えていただくのではなく、審議会としての考えを形作っていただき、それを踏まえて市長や教育長が政策に反映していくものなので、まずは審議会の中で話し合ってください。</p>
	<p>森会長</p> <p>幸手市の課題としては、学力の向上や、不登校の問題など様々あるが、今後、幸手市の教育をどうしていくのが良いかという観点から御意見をいただきたい。</p> <p>例えば小中連携という課題もあるし、人間形成能力の育成を求めるなら、ある程度的人数が必要であるとか、そのような点を考慮しながら、皆さんが思う望ましい学校配置について御意見をいただきたい。</p> <p>委員</p> <p>理想論になってしまうが、「道徳のまち さつて」として子どもたちの心を育てていくということは、委員の皆さんにも共通理解していただけたらと思う。様々な課題があるが、学校教育全体を見渡した上で、この審議会として望ましい学校の枠組みを決めて、そこに向けてどんな学校を作っていくと良いかという大元の部分を示していけると良いのではないかと。</p> <p>森会長</p> <p>今の委員からお話があった、子どもたちの心を育てていく教育というのが、幸手市の根幹の部分になるかと思う。それを実現していくためには、どのような枠組みが望ましいのか、御意見をいただきたい。</p> <p>委員</p> <p>先日、上高野小学校の学校運営協議会に出席した際、道路を横断するときに止まってくれた車に子どもたちがお</p>

辞儀をし、運転手も笑顔で手を振って応えた非常に微笑ましい光景を目撃したとの話を聞いた。本当に素晴らしいことだと思う。

子どもたちが成長して自立し、感謝する気持ちを育む教育が根幹だと思う。

この根幹を大事にしなければ、いくら勉強ができてても幸手市として良い子が育たないと思う。

森会長

心を耕す教育が、幸手市の子どもたちにとって大事な部分だという御意見をいただいた。

前回、委員から新しい風という話が出たが、新しい風というのは枠組みでも考えられるが。何か御意見があれば。

委員

幸手市の子どもたちは、色々なところで頑張っているのだから、それをもっとPRしてほしい。何度も言っているが、コロナ禍での少人数というのは、最大のアピール点だと思う。子どもが伸び伸びと学べるとか、子どもの遊び場として権現堂公園が開設したとか、幸手市の良さが周りに伝わっていないと思う。幸手市の良さをもっとPRして、幸手市に来てもらう児童・生徒を増やすことを考えていけば、学校を統廃合する必要はないし、予算さえあれば現在の地域の良さや子どもたちの良さを維持できると感じる。

委員

私も幸手市の地形的なことや政策的なことを考えながら、教育のあり方を考えていかなければならないと思う。やはり教育の目的は、総合的な人間の発展という意味での学力の向上だと思っている。

ただ、私が見た範囲だと、令和4年度の文部科学省の学力・学習状況調査では、幸手市の中学生の学力が低かった。これについては他の委員はどう思うか。

委員

これまでも話に出ているとおり、学力の向上は課題の一つと捉えている。普段の授業や学習活動が充実して子どもたちがしっかり学びあうことができ、その結果として良い成績が出るのがいいと思う。教師も一生懸命授業に取り組んでいるし、授業の巡回をしていると、教師が本当に工夫して授業をしている。子どもたちも落ち着いた

て授業を受けていると感じる。それが結果に反映されれば一番いいと思うが、当該テストはあくまでも学力の一側面でしかない。先ほど申し上げたとおり、日々の授業を大切にするよう職員には話しているし、工夫もしている。それは市内のどの学校も同様であり、結果に反映されないのであれば、もっと頑張らなければならないと思う。

委員

上高野小学校で3年間PTA会長を務めたが、素晴らしい先生もいる。是非、学校現場で周りの先生のお手本となってほしいという声があった。

森会長

子どもたちの心も含め、教育を充実させて学力も向上させるということ。その上で、子どもたちが対話をするとか自分の考えを深めるとか。中学校の学力で言えば、小中の連携、小中一貫教育にも繋がっていくかを感じる。

委員

審議会としては、適正な学校規模など、こういったプランニングをしていくのかという方向性と、少人数の学校にも魅力はあるのだから存続させていこうという方向性と、両論併記のような形で答申していくのかなと思う。

それぞれの方向性の課題について分けて議論していくと生産的になると思う。

委員

今の委員の意見に同意する。例えばA案とB案の2択という形が良いと思う。

森会長

前回、概ねの規模として学級数が決議されたので、適正規模をある程度満たしていくために幸手市の方向性をどうしていくのかという御意見をいただきたい。

委員

資料にある具体的な適正規模・適正配置の例の中で言えば、1の例と3の例で意見を集約できないかと考えている。審議会として一つの意見に集約するのは難しいと思うので、最大公約数的な形でその2つの例で検討するといった考えた。

委員

東中学校をどうするか。幸手中学校に統合するのか、残して小中一貫校にするのか、現状のままとするのかとい

うのが大きなポイントになると思う。幸手中学校に統合した場合、西関宿や長間からの距離が心配。小中一貫校にした場合、部活の問題が解決できるのか。

例えば東中学校を幸手中学校に統合して、東中学校にバス停を設定して、そこまでは自転車で通学する。

さらに東中学校の場所に小学校を統合して、老朽化した老人福祉センターと民間の力を借りて認定こども園を導入するというのはいかがでしょうかと考えている。

森会長

今、幸手中学校と東中学校を統合するという意見が出たが、その点について御意見をいただきたい。

委員

学校は、教育現場であるとともに、地域のコミュニティの場でもあるので、個人的には東中学校は残してもいいと思う。幸手中学校と西中学校が近くにあって、東側に何も無いというのはバランス的に好ましくないと思う。

統合しても部活動の問題が解決できないが、今後、東中学校の独自色を出して東中学校に行きたいと思わせる学校を作るとともに、市内の他の学区からも通学を許可することで、子ども的人数が増えて、部活動も活性化していくということも考えられる。

委員

義務教育学校である江戸川小中学校の例で言えば、部活動の数は少ないが、市内全体からの通学を許可しているので、2年目には20人、3年目にも20人増えた。部活動については中学校1年生からではなく小学校5年生から中学3年生の5学年で実施している。このシステムを希望する子も増えたと思っている。

とは言え、野球やサッカーは難しいので、そういう子は通常の学校にある部活に入りながら、地域のスポーツ少年団やクラブチームに入っている。

なお、江戸川小中学校は、全学年、市内全域から通えるようにしており、この学校で学びたいと思えるようなPRをしており、見学してもらいながら最終的に面談をして入学となる。

入りたいという子の中には、大規模校では生活しにくいという子や、不登校だった子もいる。

最初は課題もあるが、大体25人ほどの小集団であれば



集団の学びもできるし、少人数的な学習も生活できるので、多くの子が登校できるようになってくる。学力面でも少し伸ばせると思っている。

森会長

義務教育学校は9年間同じ場所で過ごすので、小学校5年生から部活へ関わるなど、特色のある学校としてPRできる。子どもによっては、少人数の方がいいという子もいるので、そういった子の一つの居場所にもなってくると思う。

東中学校区をそういう形にしていくという案を審議会として挙げるのはいかがか。

委員

高校を交えて中高一貫校はできないのか。幸手中学校を幸手桜高校に統合して、その分の予算を他の学校にまわすことはできないのか。

森会長

中高一貫となると、義務教育と県立の部分がありなかなか難しいと思う。今は東中学校区に小中一貫校や義務教育学校をという考え方に絞って、審議会の答申として挙げることに御意見をいただきたい。

委員

資料の3番目の例で、小学校3校を統合して公立幼稚園を併設するというのはいいと思うので、案に付け加えてはどうか。

委員

小学校に幼稚園を併設というのは、加須市が以前から実施しているので、少し検討してはどうか。

また、別の委員から東中学校を残してもよいのではという意見があったが、私も同意見である。

小学校3校を東中学校に統合する場合、スクールバスの運用をどうするのか、他の学校の適正規模、例えば上高野小学校とさかえ小学校の統合をどうするのかといったことも検討する必要があると考える。

委員

個人的には、現状のまま市がしっかりと援助をして、地域と学校を結び付けていくことが望ましいと考えている。

しかし、統合ということであれば、東中学校と3小学校

を統合して、さらに認定こども園を併設する案を提案する。

小中一貫校にすれば、中学校の教科担任が小学校でも教えることで人員を確保できるし、そういったことも含めて、統合することで新しい何かが始まると感じさせる、夢とか未来が見えるような計画をしてほしいと思う。

森会長

それでは、望ましい学校の枠組みは、東中学校区の小・中学校を統合して、小中一貫校または義務教育学校とする案と、東中学校区の小学校3校に認定こども園を併設して幼小一貫校とする案の2案としてまとめてよいか。

委員

東中学校区の4校に認定こども園を合わせれば、さらに理想的になると思うがいかがか。

委員

認定こども園を作るという意見は賛成だが、吉田幼稚園を廃園にしたばかりで、復活させることができるのか。

森会長

最終的な決定は市に委ねるとして、審議会の意見として幼小中を一貫した教育を幸手市の特色として出していくという答申を示すことは可能だと思う。

委員

東中学校区は地域の実情もあり、統合を地域住民に理解してもらうのは難しいと思う。避難所のこと、地域のコミュニティのこともある。

また、今後、東地区が拓ける可能性もあるので、軽率な判断はできない。

森会長

ここで答申を出しても、数年で目に見えるような形になるとは思えないが、方向性は示していかないと話が進まない。

委員

孫2人が市外に住んでいるが、保育園で外国人の先生に英語教育を受けている。公立でも可能であれば、そういったことも良いと思う。

森会長

先ほどの2案に幼小中の連携した枠組みも一つのPRポイントとして付帯案として出してよいか。



<p>他 特 に 重 要 と 認 め る 事 項</p>	<p>な し</p>
	<p>上記会議の顛末を記載し相違ないことを証するため、ここに署名する。</p> <p style="text-align: right;">令和 5年 1月 31日</p> <p>署名</p> <p style="margin-left: 40px;">審議会会長            森        祥 一</p> <p style="margin-left: 40px;">審議会委員            宮 田        充</p> <p style="margin-left: 40px;">審議会委員            山 下 太 輔</p> <p style="margin-left: 40px;">事務局職員            関 口 智 章</p>